

即興型ディベート

研究報告集

Research Report of PDA Conferences

ホテルコスモスクエア国際交流センター

2016年8月11日（木）



一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会

Parliamentary Debate Personnel Development Association (PDA)

目次

【即興型ディベート研究発表会】

- 16:15 はじめに ～即興型英語ディベートの授業導入とこれから～
大阪府立大学 中川 智皓
- 16:25 即興型英語ディベート実践報告
筑波大学附属駒場中・高等学校 須田 智之教諭
- 16:35 念願の即興型英語ディベート授業実践 中間報告
富士見中学高等学校 大関 朝美教諭
- 16:45 即興型ディベート研究報告（愛知県立阿久比高等学校）
愛知県立阿久比高等学校 岩井 玲子教諭
- 16:55 即興型ディベート研究報告
翔凜高等学校 鈴木 エリン・ブルーニ教諭
- 17:05 終了

はじめに

～即興型英語ディベートの授業導入とこれから～

大阪府立大学 工学研究科 中川智皓

(一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA) 代表理事)

毎年夏に行っております全国高校 即興型英語ディベート合宿・大会は、今年度で3回目の開催となりました。毎年、規模が拡大し、3回目は初回の倍の参加者数となり、即興型英語ディベートの広がりを感じています。英語教育においては次期学習指導要領に向け、新科目として「論理・表現」が案に挙げられています(日経新聞2016.1.13)。スピーチやディベート活動が想定されており、まさに即興型英語ディベートが授業の中でも求められ、効果を発揮するのではないかと期待しています。グローバル化が急速に進む昨今、世の中の変化も速く、それに対応する教育も多様な変化が求められると思います。英語科では、4技能の育成は当然のキーワードとして挙げられると思いますが、これからは4技能+内容、すなわち論理の時代がやってきているのだと思います。

一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)では、授業で導入できる形式でパーラメンタリーディベートの推進活動を行っています。英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識・考え方、プレゼンテーション力、コミュニケーション力などの総合的な力が同時に身に付きやすい手法として、即興型英語ディベートがこれからの教育の一助になればと願っています。本研究発表会では、即興型ディベートの各学校の取り組みについて情報交換をし、よりよい授業へのヒントとしていただければ幸いです。即興型英語ディベートを初めてご紹介させていただく際、“ディベート”かつ“即興で”となるとうちの学校では無理!という反応をされる先生方も多くいらっしゃいました。しかし、いざ提案の即興型英語ディベートを行ってみると意外にできる!生徒が楽しんでいて驚いたなど、非常に多くのポジティブな感想をいただきます。そして、授業に導入してみた先生方からは、本手法であると教員の負担も少なくやりやすいといった感想もいただきました。もちろん、マイナーな課題はまだまだあると思いますが、研究発表会での各校の工夫がこれからの授業導入への一歩につながれば嬉しく思います。

本PDA 全国高校 即興型英語ディベート合宿・大会 2016 および研究活動について、以下、多くのご支援をいただきました。関係各位に心より感謝申し上げます。

公益財団法人 日本財団、文部科学省、大阪府立大学 異分野研究シーズ発掘・連携促進・融合領域創成支援事業 パーラメンタリーディベートを用いた総合力の評価に関する研究 ほか

※ここでは、パーラメンタリーディベートを通常授業(50分)に導入できる形式にアレンジしたものを、なじみやすい・理解しやすい表現として、即興型英語ディベートと呼んでいます。

即興型英語ディベート実践報告

須田 智之

筑波大学附属駒場中・高等学校

(1)はじめに

本校（東京都世田谷区，国立大学附属男子校，160名/学年）では，高校2年次の授業（ネイティブ講師とTeam Teaching，週1時間）において，英語ディベートを実施することになっている。筆者は過去に3回ほどこの授業を担当したが，英語ディベートの経験が全く無かった為，その指導には非常に苦労してきた。しかしながら，昨年度よりPDAの合宿などに参加し自らが英語ディベート体験を積むことによって，より自信を持って授業を展開できるようになってきた。

(2)実践内容

PDAフォーマット（スピーチシートを）を活用し，1学期には4回のラウンドを実施した。全体的な課題点については，その都度指導をしつつ実施，チェアパーソンやジャッジも生徒達にやらせている。徐々にディベートの形式に慣れて，毎回の対戦を楽しんでいる様子である。

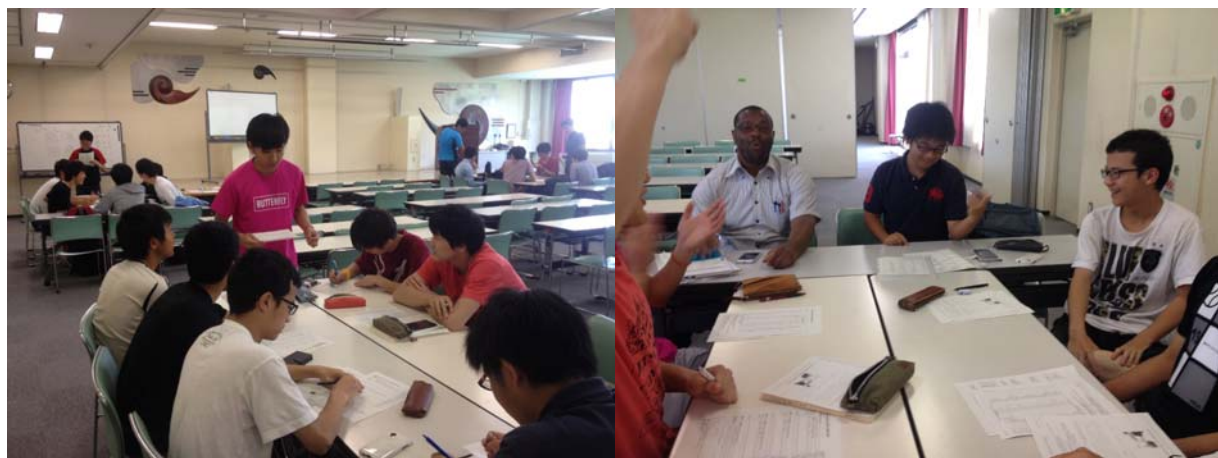


図1 1学期の授業の様子から

部活動（語学部）や放課後の英会話講習会（English Room）などとも連携を図ることによって，学内での英語ディベーター数が増えると共に，外部の練習会や大会への参加希望者も増えつつある。

(3)まとめ

1学期末に生徒アンケートを実施した結果，即興型英語ディベートによってプレゼンテーション・スキルやリスニング力などの向上を生徒達が実感していることが分かった。また，英語ディベートが将来（大学入試後という人生の長いスパンにおいては）役に立ちそうだと感じている生徒が多いことが分かった。今後も更に，英語ディベートとその効果を学内外に普及していきたい。

念願の即興型ディベート授業実践 中間報告

大関 朝美

(東京) 富士見中学高等学校 英語科

(1) はじめに

高校1年生のコミュニケーション英語Ⅰの授業(3グレードの習熟度別で一番上のグレード)で4月から実践したディベート指導の実践報告です。本校は中高一貫の女子校で、私は持ち上がりでこの学年を教えて4年目になります(各学年英語担当は2名)。英語が習熟度別になるのは高校からで、私も持ち上がりとはいえ、久々の高校でしたのでレベル感がつかめず、初めずいぶん突っ走ってしまいました。なのでディベートも初めは無理やり導入し、生徒達から「ディベート苦手…」というささやきが聞こえたこともありましたが、彼女たちのペースへの“歩み寄り”作戦の甲斐あり、今は生徒たちもディベートにだいぶ慣れてきたようです。以下が報告になりますがその前提をご承知おきください。

(2) 実践報告

- ① ディベートの仕組みを説明(日本語で)4月
- ② 第1回ディベート実践 前回の翌週 Speech (2分×4、1分×2)
“Fujimi should allow students to study at school until 7 o'clock.”

←悲しいほどに声が小さい…
2分すら持たない…、そもそも辛そう…、前途多難

- ③ 第2回ディベート実践 5月
“Sleeping in futon is better than sleeping in bed”

←面白い意見をほめまくる、各スピーカー近くに寄って行って、「素晴らしい意見だわ!」ジェスチャーで自信を付けさせる

- ④ 第3回ディベート実践5月
“Lunch box is better than school lunch.”

←まだやや自信がなさそう…。→歩み寄り活動継続。

この他に AREA で1分スピーチの練習は週1、2回行っていた。

<<中間試験>>

- ⑤ 第4回ディベート実践 6月
“Japanese food is better than western food for breakfast.”

この時、ふと生徒たちに「ディベートの形式でしかスピーチ出来ない」症状があることを悟った。

このままでは目指すものが変わってきてしまう(ディベートは論理的思考力・スピーチ力をつける手段でありディベーターになることが目的ではない!)と焦り、スピーチ練習の形態をディベートのみの路線からディスカッション・プレゼンの要素を入れたものに変えることにした。そのため、6月20日には英語 Bibliobattle (3分プレゼン+2分ディスカッション)開催、7月4日にはごみを減らすための法案作り・プレゼン(正直これはPMスピーチに似ていてよかった)などの活動を取り入れた。



Bibliobattleの様子

- ⑥ 第5回ディベート実践 7月5日 “Space exploration is a waste of money.” (3分×4、1分×2)



↑個人差はあるものの3分の壁は多くの生徒がクリア。
サマリー1分は短すぎた…。

←学期最後の debate match

新法案プレゼン→



(3) まとめ

今でも手を説得させるようなスピーチをするにはまだまだ段階です。また、視野が狭く、なかなか自分たちの周り以外の世界を想像できず、まだまだ改善の余地が多くあります。ただ、生徒たちの表情が各段に変わり、ずっと生き生きとディベート練習やスピーチ練習をしていることは励みです。今後も修正を加えながら実践を続けていきたいと思います。

即興型ディベート研究報告（愛知県立阿久比高等学校）

岩井 玲子*
愛知県立阿久比高等学校

(1)本校の沿革

創立38年目を迎える愛知県の公立高校。9割以上の生徒は大学、短大、専門学校に進学する。1学年8クラス中、国際コミュニケーションコース1クラス、普通コース7クラス。国公立進学は、4年前までは1桁台であったが、2年前に10名、一昨年度20名、昨年度30名（名古屋市立大、愛知県立大、岐阜大、三重大等）と徐々に増加傾向。私立大学も地元の南山大学からMARCH進学者が出てくるようになった。しかし、8クラス中文系6クラス、理系2クラスと文系生徒が圧倒的である。ディベートのように論理思考を必要とするものは、苦手とする生徒が圧倒的である。英語の力に関しては全国模試偏差値では上は70台弱～30台と幅広い。

(2)実践内容

実施時期：平成27年9月（昨年度夏の合宿での研修を終えてから）

実施学年：3年生1クラス（国際コース21名、普通コース19名混合クラス）

授業時間：コミュニケーションⅢ（4単位）中の4時間（1回目）、3時間（2回目）

授業準備：

- ①ディベートというものを日本語でも行ったことがない生徒も多数であること。
- ②問題に対する知見を広げること。
- ③グループで協力試合ながらブレインストーミングさせること、を目的として次のことを行った。
 - 1) テーマ① “All the youth under 20 in Japan should experience volunteer activities abroad.”
 - テーマ② “Younger Japanese in Japan should learn more Chinese than English.”
- 2) 特別講師を招いてテーマに沿った特別授業およびフリー質問会
 - ①DENSO勤務経験者の教員 ②大学講師および本校非常勤教師
- 3) 40人クラスを8人（4人×2）の5グループ別に、分割しそれぞれのテーマでブレインストーミングの後、4人1組で” Debating on Paper” を行う。
- 4) その後4対4の各グループで、ピンポンディベートを行い、ウォーミングアップを行う。
- 5) 本番。クラス公開ディベート。1チームは、国語の先生と社会の先生にグループに入ってもらい、ジャッジシートを配って、ジャッジをしてもらう。

(3)まとめ

実際行い、生徒の感想を全員に書いてもらったところ、ほぼ100%の生徒が大変好意的なコメントを寄せた。中には、一番楽しい授業であった、ともあり。様々な分野の先生に関わっていただきながら、他教科の先生や、担任の先生にも大勢に見ていただいて、ジャッジをしたこともいい緊張感と充実感に繋がったか。しかし、まだ本来のPDAで行うにはscaffoldingが必要。現在2年生国際コースで1単位の授業で行っているが、ディベートの論理の組み立てから、どのように反駁するか、日本語から行わないと論理的な文章の組み立てができない状態である。また、今後ディベートルールに持って行くまでには、しばらく時間がかかる。まとまった時間で、即興で行えるまでには、いくつかのハードルを要するが、段階をおって年度末には出来るようにしていきたい。

即興型ディベート研究報告

鈴木 エリン・ブルーニ
千葉県 私立 翔凜高等学校*2

(1) Introduction

At Shorin Gakuen, a private junior and senior high school located in Kimitsu, Chiba, we implemented PDA Debate at the high school second year level in our English Conversation Course in conjunction with curriculum which prepares students for debate at the junior high and high school level. We found that, after a year of linking parliamentary debate topics with Communication English II curriculum topics, students' GTEC writing scores, EIKEN interview tests, and overall competence in essay writing improved.

(2) Instruction Contents

Students in second year English Conversation courses start parliamentary debate after an introduction to debate activities and principles. This course meets 2 hours a week. In the first trimester, students practice supporting a warrant and claim using the Assertion Reason Example / Evidence Assertion (AREA) pattern. They become accustomed to short, 2 minute mini-debates. After they have learned argument structure, students learn summary and rebuttal techniques. They learn the concepts of probability, value, impact, and argument by authority. At the end of the first trimester, parliamentary debate is introduced with a topic the students are already familiar with: This House Would Ban Homework or This House Would Ban School Uniforms. In the second trimester, students practice debating in parliamentary debate style with topics that coincide with readings from their Communication English II course textbook, *Crown II*. Examples of topics include: THBT Genetically Modified Organisms are beneficial for human health, THBT female professional athletes should be paid the same as males, and THW replace human teachers with computers. In the third trimester, students debate using topics from the news. After a debate on a topic, students do a reading usually from *Breaking News English* to gain background knowledge on the topic they debated on. They do the debate again the following class and reflect on how their language and debating changed once they had more background knowledge of the topic. Students then write a 5 paragraph essay about the topic they have debated. Students spend 4 to 5 class periods debating, discussing, reflecting, and writing about one topic. Examples of topics include: Zika virus, electronic cars, and student evaluation systems

(3) Conclusion

After finishing the debate curriculum, students reported increased confidence in writing and speaking exams and performance evaluations, including GTEC, EIKEN, entrance exams and interviews. Scores for GTEC writing improved. Parliamentary debate has improved student fluency and response time. We are still working on an effective way to actually evaluate and monitor debate progress and performance.

即興型ディベート研究報告集 PDA16-1

発行日 2016年8月11日

発行所 一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会

大阪府堺市中区学園町1-1 大阪府立大学 工学研究科 機械工学分野 中川研究室内